富津市創生会議　会議録

1　会議の名称	富津市創生会議
2　開催日時	令和７年３月 19 日（水） 午後２時から午後４時まで
3　開催場所	富津市役所１階　大会議室
4　審議等事項	富津市人口ビジョン 2050（案）及び第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
5　出席者名	富津市創生会議委員（７名） 青木　和彦、石井　喜美子、岡田　亮介、小泉　晴信、 小嶋　友子、新行内　崇彰、鈴木　真紀 事務局（８名） 市長　高橋　恭市、副市長　中山　正之、 企画政策部長　石井　太、企画政策部次長　佐藤　慎也、 企画課長　秦野　憲一、企画課企画係長　牧野　圭吾、 企画課副主査　大野　恵、企画課副主査　若松　拓馬 事業担当課（41 名）
6　公開又は非公開の別	公　　開　・　一部公開　・　非　公　開
7　非公開の理由	富津市情報公開条例第 23 条第　　号に該当 （理由）
8　傍聴人数	０名（定員５名）
9　所管課	企画政策部企画課企画係 電話　0439-80-1223
10　会議録（発言の内容）	別紙のとおり

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

令和７年　４月　21 日

富津市創生会議　　会議録署名人　　岡田　亮介

会議録署名人　　鈴木　真紀

富津市創生会議　会議録

発言者	発言内容
事務局	委員の皆様方には、本日はご多用のところお集まりいただき誠にありがとうございます。 まず、本日の会議資料の確認をさせていただきます。 机上配布させていただいております、会議次第、席次表、出席者一覧表、事前に送付させていただきました、富津市創生会議について、資料１　富津市パブリックコメント手続実施結果報告書、資料２　富津市人口ビジョン 2050、資料３　富津市人口ビジョン 2050 附属資料、資料４第３期総合戦略の【案】と【完成版】の対照表、資料５　第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略、資料６　第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画【2025 年度当初予算版】、以上が本日の会議資料でございます。 資料はお揃いでしょうか。 １　開会
事務局	それでは、ただ今から、富津市創生会議を開会いたします。 初めに、本日の委員の出席状況を報告させていただきます。岩井委員、梅内委員、笹生委員、島野委員から欠席のご連絡をいただいています。 そのため、本日の出席は、７名でございます。 従いまして、富津市創生会議設置要綱第６条第２項の規定により、半数以上のご出席をいただいていますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。 続きまして、会議の公開についてですが、本日傍聴者がいないことをここで報告させていただきます。 また、会議録作成のため録音させていただきますのでご了承願います。 なお、質疑応答の際は着座にてマイクをご使用いただき、係員へ受け渡しいただきますようお願いいたします。 それでは、開会にあたりまして高橋市長からご挨拶申し上げます。 ２　市長挨拶
高橋市長	（市長挨拶）
事務局	続きまして、青木会長からご挨拶をお願いいたします。 ３　会長挨拶
青木会長	（会長挨拶） ４　副市長挨拶
事務局	ここで、副市長からご挨拶をお願いします。

副市長	（副市長挨拶）
事務局	ありがとうございました。 それでは、本日の会議の趣旨及び議事進行につきましてご説明申し上げます。 「富津市創生会議について」をご覧ください。 始めに、本日の会議の趣旨について、ご説明申し上げます。 本日の会議は、「富津市人口ビジョン 2050 及び第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」を議題として挙げさせていただいております。まず、資料１から５を用い、富津市人口ビジョン 2050 及び第３期総合戦略について、ご説明をさせていただきます。その後、資料６を用いまして、第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画【2025 年度当初予算版】について委員の皆様方からご意見等をいただき、今後の事業実施の改善方策として取りまとめるものでございます。 次に、議事進行につきまして、ご説明申し上げます。 始めに、富津市人口ビジョン 2050 及び第３期総合戦略の全体を通して議論をお願いいたします。 その後、第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画【2025 年度当初予算版】について、まず、基本目標１と２について議論いただき、その後、基本目標３と４について議論をお願いいたします。議論の時間は、25 分ずつを予定しております。 会議には、事業担当課職員も出席しておりますので、委員の皆様方からのご質問等にお答えし、また意見交換等をさせていただきます。 会議終了時刻は、午後４時頃を予定しております。議論の進行状況により、前後するかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、ここからは、富津市創生会議設置要綱第６条第１項により、会長に議長となっていただき、進行をお願いします。 青木会長、よろしくお願いします。 **５　会議録署名委員の指名**
青木会長	まず初めに、本日の会議録署名委員を指名させていただきます。岡田委員と鈴木委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。 **６　議題　富津市人口ビジョン 2050（案）及び第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について**
青木会長	「富津市人口ビジョン 2050 及び第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、事務局の説明を求めます。

事務局	富津市人口ビジョン 2050 及び第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、ご説明いたします。 はじめに、資料１をご覧ください。 昨年 12 月 18 日から本年１月 17 日までの１か月間、パブリックコメントを実施し、５件のご意見を頂きました。頂いたご意見の内容とそれに対する市の考え方は、２ページ目の別紙に取りまとめております。 ご意見としては、主に、女性の結婚・出産に関すること、有害獣の駆除に関すること、雇用や人口に関すること、公共交通に関することについて頂きました。 頂いた貴重なご意見は、関係事業に取り組むに当たって参考とさせていただきます。 次に、資料２、富津市人口ビジョン 2050 につきましては、グラフや表、字句を整理して見やすくするなど、軽微な修正を行ったのみであるため、説明を割愛させていただきます。 次に、資料３、富津市人口ビジョン 2050 附属資料につきましては、２ページをご覧ください。 本資料は、富津市人口ビジョン 2050 本編の内容について補完する補足資料でございます。 このページの表の一番右側にて、本資料に掲載している主な事項の概要を列挙し、その詳細は３ページ以降に記載しております。詳細な説明は割愛させていただきます。 次に、資料４、第３期総合戦略の【案】と【完成版】の対照表をご覧ください。 資料４は、左側に第３期総合戦略の案を記載し、右側に完成版を記載しており、案から完成版への加除修正箇所は、黄色のラインマーカーを引いております。主な変更点について説明いたします。 まず、２ページの右側、施策２の「子育て応援きずな事業」をご覧ください。 括弧書きの「ふっつ子育て LINE 配信事業」から「チャイルドシート貸付事業」までの６つの事業は、左側の案では、個別の事業としてそれぞれ記載しておりましたが、令和７年度からは、これら６つの事業に、新規会員登録した保護者に３千円分のクーポンを配布する「ファミリーサポート援助活動」を加え、全体を一つの事業「子育て応援きずな事業」として実施することから、右側のとおり、表記を修正いたしました。 また、同じ経緯により、３ページ中段の施策３の事業、再掲の「ふっつ子育て LINE 配信事業」につきましても、右側のとおりに表記を修正いたしました。 恐れ入りますが、２ページに戻っていただき、右側、下の「保育料・給食副食費の軽減及び無料化」をご覧ください。

左側の案では、「第３子以降の保育料、給食費の無料化」としておりましたが、令和７年９月からは、現在第３子以降を対象に実施している保育料の完全無料化、給食副食費の補助に加え、保育所等の保育料について、第１子は３割、第２子は５割の軽減を実施しますので、右側のとおり表記を修正いたしました。

次に、３ページ、一番下の目標値、「地域の良さを回答できる児童生徒の割合」について、左側の案では「75.0％」となっておりましたが、担当課において目標値を再検討し、「77.0％」に修正いたしました。

次に、５ページの右側、一番下の事業、公民館の「ふっつ検定事業」をご覧ください。

左側の案では、この事業はございませんでしたが、「富津市みらい構想」に掲げる市が目指す将来像、「誇りと愛着を持てるまち　ふっつ」の実現に向け、市民の皆さんをはじめ、多くの方々が、検定という身近な方法で市の魅力や施策などの理解を深める取組を実施するため、追加した事業でございます。

次に、同じく５ページ、右側の目標値、「自分の住んでいる地域や富津市が好きな子どもの割合」をご覧ください。

左側の案では、この目標値はございませんでしたが、「鋸山日本遺産認定推進事業」における事業内容の一つに、「域内小中学校での普及啓発活動事業」があることを踏まえ、新たに設定したものでございます。

次に、６ページ、一番下の事業、「未利用地を活用した企業誘致」をご覧ください。

令和７年度の組織改編により、所管課が、左側の「資産経営課」から右側の「財政課」に変更となることに伴う修正でございます。

次に、８ページ、市民デジの「国民健康保険・後期高齢者医療制度に関する手続」をご覧ください。

電子申請サービスを活用し、申請をオンラインで行える手続に、「国民健康保険の加入・脱退」が加わりましたので、右側のとおり、修正いたしました。

次に、同じく市民デジの中段に記載している、「市民のニーズに対応する公民館、市民会館学級講座の開設」をご覧ください。

左側の案では「ICT 教室」を記載しておりましたが、ICT 教室をプログラミング教室に令和５年度から統合し、実施しているため、削除したものでございます。

次に、同じく８ページの地域デジ、「移住・定住促進事業」をご覧ください。

左側の案では、「プロモーション映像を作成し、デジタルサイネージや SNS で情報発信を行う。」としておりましたが、右側のとおり、「移住・定住サイトなどで、プロモーション映像を発信するとともに、移住・定住に関する情報発信を行う。」としております。これは、今年度に引き続き来年度以降も実施する内容に修正したものでございます。

以上が、資料４の説明となります。

	次に、資料５の第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、ただ今ご説明しました加除修正を溶け込ませ、表紙、市長あいさつ、余白部分への写真やイラスト、資料編を追加しております。 次に、資料６、第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画をご覧ください。 この実行計画は、第３期総合戦略に掲げる施策・事業を、計画的かつ効果的に実行していくため、年度別事業内容、事業成果等を取りまとめたものです。 これは、毎年度、その進捗状況や成果を取りまとめ、創生会議や既存の審議会などと連携し、評価、改善を行うことで、次年度以降における予算や事業実施のための具体的な指針とするため、策定するものです。 今回、第３期総合戦略に掲載している全ての事業について、「2025 年度当初予算版の実行計画書」として取りまとめ、作成したものが、この資料６の実行計画となります。事業ごとの説明は、割愛させていただきます。 市民の皆様への周知につきましては、今月末までには、市ホームページに公開し、広報紙でお知らせいたします。 富津市人口ビジョン 2050 や第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の冊子の印刷製本は、翌４月に行い、各種関係団体、各種会議の委員等に配布する予定です。また、公民館等にも冊子を置くなどし、市民周知を図ってまいります。 以上で説明を終わります。
青木会長	それでは、質疑応答に入ります。 まず、富津市人口ビジョン 2050 及び第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略について議論していただきます。発言される場合は、挙手にてお願いします。 では、新行内委員お願いします。
新行内委員	千葉銀行の新行内でございます。よろしくお願いいたします。 まずは、第３期総合戦略の資料を拝見させていただきまして、非常にきめ細かく、新しい施策を盛り込んでよく練られた総合戦略を市役所の皆さんが総力を挙げておつくりいただいたと感じました。本当に感謝申し上げます。 資料を拝見しまして、私の方で感じましたことを少し述べさせていただければと思います。 富津市人口ビジョン 2050 を見てみますと、近隣３市は、合計特殊出生率、未婚率も県平均よりも良い数値となっているのに対し、富津市は平均よりも悪い数値となっています。

	また、20代後半の男性が、Uターンや湾岸部の製造事業所への転職で、転入超過となっているのに関わらず、残念ながら 30 代には転出超過になってしまっています。おそらく、近隣３市に転出してしまっていると推測します。 昨日、公示地価が発表され、今朝の新聞にも載っておりましたが、木更津や袖ケ浦、君津の近隣３市はほとんどの地点で上昇しているのに対しまして、富津市は、良くて横ばい、あとは下落というような状況でした。こういったところも、近隣３市と富津市のその現状が表れていると感じました。 パブリックコメント等の中で住民の声として記載されておりましたアンケートでも結果が出ていると思いますが、富津市の人口減少の原因として、交通の不便さを挙げていらっしゃる市民が非常に多いと感じました。 私も実際そのように感じるところはありまして、それに対しまして、基本目標４の暮らしやすく、移住しやすい環境づくりの中で、市内の交通利便性維持向上という施策を立てていますがその施策を進めていく中でも、その施策が市民の求めている交通利便性向上の内容とマッチしているのかどうかっていうところは常に確認していく必要があると思いました。 そこが市民のニーズとずれてしまっていれば、その施策を進めていっても、結果にはつながらないと感じます。 交通の利便性の改善や原因の一つとして挙げられている商業施設が乏しいため商業施設を誘致するといった、市民が求めていることを実現するのはなかなか難しい問題だと思いますが、ぜひ重点施策として取り組んでいってもらいたいと思います。 併せて、大事な施策で特色を出せることとして教育があると思います。定住人口の増加を目標とした場合、その中心となる子育て世帯にとって、学力向上に力を入れている街であるっていうことは、シティプロモーションの手段としてもとても有効であると言われています。実際、私も子どもを持つ親としてそういうふうに感じるところがあります。 富津市には豊かな自然といった強みがあり、そういった地域の特色を生かした教育ということはとても大切だと思いますのでやっていただきたいと思います。 学力の向上に着目した施策っていうところで富津市としてやっていくことも魅力を高めることにつながっていくのではないかなと感じました。 以上です。
高橋市長	新行内委員ありがとうございました。

	全般にわたってのご意見を頂戴いたしましたので、私の方からお礼方々お答えさせていただきたいというふうに思っています。 支店長が触れていただいた、交通利便性のニーズと我々の施策が合っているのかということや、市民の皆さんの富津市に対する不満の中で、交通利便性並びに商業施設等々っていうのは非常に行政の力だけでは難しいというふうに感じることも正直ございます。 しかしながら、様々な力を結集し、何とか今よりも一歩でも前に進めるようにという思いで施策の展開をさせていただいているつもりでおります。 若者の交通利便性のニーズというのが、本当に今私達がやっているタクシーであったり、バスであったりというところに不満があるのかというと、もしかしたら少しずれてしまっていると、今後そういうところをしっかりと確認する必要があるだろうというふうにも思っています。 そして若者に定住していただくに当たって、やはり子育て施策、教育施策というのが非常に重要だということは強く認識しております。 であるからこそ、もう少し尖った施策をやっていきたいという思いで令和７年度をスタートさせるという意気込み、気持ちで今取り組んでいるところです。 学力向上に着目したものに関して、特に基礎自治体でありますので、義務教育の中で、とにかく落ちこぼれる子どもたちをなくすように、そして次のステージに向けてしっかりと基礎学力をつけることが、やはり基礎自治体としては、責務ではないかなというふうにも感じています。 多くの方が、魅力を感じていただけるメニューと同時に、そういうような大事な基礎の部分も大切にしながら、教育委員会等と力を合わせて、ぜひ子どもたちの教育施策を展開していきたいなというふうに思っているところです。 そして、人口動態の中で、20 代後半男性が入ってくるけど 30 代で出ていくというようなご指摘をいただきました。 まさにそこも、若い女性の転出と同じく大きな課題だというふうに思っています。 住む場所の提供等々がなかなかできていないということもあると思いますので、県や民間の力をお借りしながら、何とか家を建てられるような土地を広く作っていくというのも今後の中では行っていかなければいけないというふうに思っています。 全般にわたって、本当に貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。 金融機関の皆さん非常に我々行政と比べても様々な点での情報アンテナが高いというふうに思っておりますので、今後とも様々なご意見を頂戴できれば幸いです。 どうもありがとうございました。
青木会長	他にご意見・ご質問等ないようですので、以上で、「富津市人口ビジョン 2050 及び第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」については終了いたします。

	次に「第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画【2025年度当初予算版】」について議論していただきます。 まず、基本目標１と２について議論をお願いいたします。発言される場合は、挙手にてお願いします。
青木会長	私のほうから質問させていただいてもよろしいでしょうか。 資料の 12 ページに目標 1 の施策番号が 1 で「出会う機会を増やし結婚の希望をかなえる」というところがありますが、これについてお伺いします。 2025 年度この事業内容の中に、登録者情報の共有・情報交換ということで､結婚相談員事務連絡会議への参加ということが記載されています。 これについて、それぞれの市で同じような組織というか結婚相談所のような、そういった役割を各市で取り組んでいらっしゃると思います。 担当者の方が集まっての会議と認識をしているところですが、その中で、例えば市単位での結婚の相談をしているのか、それとも５市で協議をするということは、その５市の中で、他市の方との結婚とかそういうものの協議をされるのかというところをお伺いしたいと思います。 また、以前の会議の中や市民会議の中でも出ていたと思いますが、この結婚相談所の開設という中で､2025 年度以降はデジタル化を目指してということがある中でこういった相談をする方をネットで募集をする等の関わる仕組みを作るとかそういったものを考えていらっしゃらないのかという、その２点をお伺いしたいと思います。
市民課	最初に５市の連絡会議の方でどういった議題の方を話されているのかというところの確認になりますが、結婚相談員さんに、毎週火曜日に富津市の方で結婚相談所を開設していただいておりまして、そこで結婚を希望される方の相談に乗ったり、出会いの機会を求める方に登録をしていただいて、マッチングというものを実施しています。登録していただいた方の情報交換ということで、君津市、木更津市、それから袖ケ浦市でも同様のことを行っておりますので、そういった登録された方の情報交換ですとか、そういったことを会議の方で主にさせていただいております。 結婚相談員の役割としては、ここから市の方針といたしまして、委員のおっしゃるとおり、そういった出会いの機会をデジタル技術の活用を取り入れていくべきじゃないかというところでこれまで連携してきたのが主でしたが国がこども家庭庁を創設しまして、昨年度から千葉県の少子化対策協議会というところで千葉県から自治体が連携をして、何かできないかというところで取り組みをスタートしております。 今のところ、具体的な取り組みとしては、取り組み事例の情報共有にとどまってしまってはいますが、その中で、広域的ないわゆるマッチン

	グなど、そういったものを導入してみてはどうかという意見も出てきておりますので千葉県の方と連携しながら、当時の総合戦略の目標になっております出会う機会の創出というところで取り組んでいきたいというふうに考えております。 以上となります。
青木会長	他にご意見・ご質問ございますか。 はい、岡田委員お願いします。
岡田委員	ご説明ありがとうございました。 36 ページの「子どもの笑顔があふれるまちへ」の副読本に関してお伺いしたいと思います。 ご説明の中で情報修正がされておられたと思いますが地域への愛着の部分で、75%を 77%に引き上げられていたかと思います。その政策が、この 36 ページの副読本編成事業に当たるのだろうというふうに理解をしております。 2025 年度におそらく副読本を見直して作り直し、2026 年度以降新しい副読本を配布することで事業成果として、2026 年度に 3.5 ポイント上昇するので 75%を 77%に引き上げたというふうに理解をしております。 不勉強で申し訳ないですが副読本っていうのは、通例どのぐらいのタイミングで作り直されておられるのかっていうのと、新しくなることで、2025 年度から 2026 年度にかけて子どものまちへの愛着がより高まるきっかけになるというふうに政策的には狙っていらっしゃると思いますが、今回下に QR コード動画視聴等があるよっていうところはわかりますが、それ以外に今回 3.5 ポイント上積みできる今回の新しい副読本の推しをポイントみたいなものを教えていただければと思います。
学校教育課	今おっしゃられたように 2025 年度副読本の改定を 2024 年度 2025 年度、２か年をかけて行い、2026 年度から新しいものを使うということになります。 この改定のスパンですが、学習指導要領の改訂に合わせて行っております。 おおむね 10 年に１回が大きな改定、そしてその途中の５年ごとに教科書も改定されますので、その５年ごとに見直しをするというようなスパンで行っております。 副読本の方の推しは動画の視聴ができるというところで、視覚的にも子どもたちが富津の良さに触れられるような作りになっております。 副読本だけでなく地域学習というものに力を入れておりまして、校外学習もそうですし、新富地区の工場地域のポテンシャルを今後うまく生かしながら地域学習を進めていくということなどを通して、市への地域

	への愛着、誇りというものを醸成していきたいというふうに考えております。 　以上です。
青木会長	他にご意見・ご質問ありますでしょうか。 　はい、新行内委員お願いします。
新行内委員	25ページの学校給食費の無償化について、先ほど事務局の方からも保育料につきましては、第１子、第２子も対象にしましたというご説明いただいたところでまさに私もご質問しようと思っていました。 　富津市の合計特殊出生率が直近で0.9を切るところまで低下している現状を見る中で対策をするとすれば、第３子に対してではなく、第１子や第２子を対象にした方が効果が見込まれないかなというふうに感じて仕事をしていましたが、先ほどそういった保育料のところをご説明いただいたので、学校給食費のところも、そういったところを検討される予定があるのかどうかというところをお伺いできればと思います。
学校教育課	給食費無償化につきましては、令和７年度からは中学校全学年の無償化を対象として、実施をするところです。 　小学生の学校給食費無償化については、今のところ県の補助金を活用して第３子を対象としています。 　第１子、第２子に拡大するということにつきましては国の無償化等の報道もありますので、今国の動向を注視しているところです。
青木会長	他にご意見・ご質問ございますか。 　はい、小嶋委員お願いします。
小嶋委員	望みの門の施設長の小嶋と申します。よろしくお願いします。 　33ページの「子どもや子育て世帯が集まる場づくり」ということでこれに関しては子育て支援センターが各地区に１か所ずつ設置されているということは子育て世代の方たちにとってはすごくいいことだと思いました。 　その中でいろんな情報を提供していただけると、育てやすい環境というところができ、今後の期待できるところだと感じました。 　次のページ、34ページの「児童遊園地管理運営事業」というところで、来年 2025 年度から 2027 年度については３年間目標値がない状況ですが、この評価をしないことに何か理由があればお聞かせいただきたいなと思います。よろしくお願いいたします。

保育課	ご質問ありがとうございます。児童遊園地管理運営事業について、ご回答させていただきます。 こちらの数値につきましては「子ども・子育て支援事業計画」の関係で 2023 年度にアンケート調査を実施している数値を用いているというところで、そのアンケート調査を５年に一度行うような形になりますので、次の実施に合わせて 2028 年度にこの 80％という数値を設定したところでございます。 以上でございます。
青木会長	他にご意見・ご質問ございますか。 では、石井委員お願いします。
石井委員	大変こと細かく丁寧なご提案ありがとうございます。 私の方から２点、お伺いできればと思います。 一つ目は 41 ページの「子どもの学力向上推進」に関してです。 先ほど新行内委員さんの方からも、市の発展に向けては、子どもたちの学力向上も一つの要素であると大変ごもっともなご意見を伺ったわけですが、現在プログラミング教育が社会の波とともにこういったものも義務教育の中にどんどん入ってきている状況をよく理解できます。 実際に事業成果のところ見てみますと、ICT を活用した授業を週５回以上実施した教員の割合が 2025 年度 79.5％と達成目標を掲げていらっしゃいますが、現在のところ、実際に学校でプログラミング教育を進めるにあたっての弊害となることは何なのかということ、また市の ICT アドバイザーの活用の状況を教えていただきたいです。 二つ目は、42 ページの同じく子どもの学力向上推進についてのことです。 昨年度だったでしょうか、同じ項目で質問をさせていただきました。 この事業においては、生活困窮者等々の世帯の児童生徒さんを対象とするということで実際に現在の取り組み状況を再度お聞きしたいということと、これは主管課が健康福祉部、担当課が子ども家庭課になっていらっしゃいますが学校教育課との連携はどのように図られているかということでお伺いできればと思います。 以上です。
学校教育課	プログラミングにつきましては、小学校では現在は各教科等の中で、主に行われております。 特段、プログラミングという教科があって実施しているというわけではなく、各教科の中で行われているような状況です。 中学校では主に技術科目を中心に行われております。

	その中で弊害、課題としてあることは、今ソフトを使うプログラミングの学習をすることが多いですが、パソコンの中だけで簡単なプログラミングをやっているようなつもりになってしまう部分があり、そういったものが生活や社会の中でどう生かされているのかっていう部分、実際に物が動くであるとかそういったことの体験っていうのが乏しいというふうに感じております。 そこで ICT アドバイザーの島野さんを活用させていただいて、本年度からプログラミング教室というものを開催しております。 今年度は２校に対して行いました。ソフトを使いながら意図どおりにドローンを動かすといったようなことをしております。 ドローンを効率よく意図どおり動かすにはどんな指令を出したらいいのかというところを通して論理的思考力を育むというようなことをしております。 またマスクの有無を判定するような AI の開発などといったこともプログラミングソフトを使いながらやっております。 そういった事業を通して、ICT であるとかプログラミングであるとかっていうことに興味を持つきっかけというふうにしていきたいと考えております。
社会福祉課	この子どもの学習支援事業は、令和６年度は社会福祉課の方で行っていますので、社会福祉課からご説明させていただこうと思います。 現在の利用状況ですが、市内２か所で行っておりまして、既に１回ずつ実施しております。 小学校４年生から６年生までは、毎週１時間集まっていただいて、中学生が２時間という形で進めさせていただいているところでございます。 また、送迎につきましても、自宅の方にお伺いさせていただいて送迎付きで行っているところでございます。 利用状況としましては、大体 20 名のお子さんが利用されているところでございます。 また学校教育課等との連携というところですが、学校教育課というよりは、直接小・中学校の方に訪問させていただきまして担任の先生や、教頭先生に生徒さんの状況等をお聞きしながら実際に学習を進めていく中で、参考とさせていただきながら、学習の面でサポートをさせていただいているところでございます。 以上でございます。
青木会長	他にご意見・ご質問ございますか。 では、岡田委員お願いします。
岡田委員	57 ページの 2024 年度から「孤立集落災害対策事業」についてです。

	2024年度、2025年度で県の補助金を使われて、石川県の半島性を有する目的のところに書いてあるとおりで非常に素早い対応をされておられるところに関しては非常に感謝しております。 この２か年によって、物資の供給、予防伐採等に関しては一旦補助金使って、終えられると思っていますが、前のページの56ページ、今度は自主防災組織促進事業の訓練みたいなところは引き続き行っていく必要があると思っています。富津市が半島であることで、何か特別な訓練がもしあれば教えていただきたいなと思いました。 もう一点が70ページ「特定健康診査事業」ですが2025年度から2028年度にかけて、予算も同じで実施する項目もほぼ同じだと認識していますが、一方で成果の方が、2025年度から2028年度にかけて毎年２ポイントずつ上昇しています。例えば隣の歯科健診等であれば、同じく予算がほぼ同じであれば、成果目標の方は大体横ばいに置いていることの方が多いと思いましたが、特定健診の場合は同じ予算で同じことをやるのに、項目目標を意欲的に高めていることは何か続けていくことで、受診率を上げるような秘策やアイディアがあるのかなと思いまして、もしそのようなことがあるのであれば知りたいなと思いました。
防災安全課	まず57ページの孤立集落の件ですが、一応実行計画の方では2025年度までということで、記載の方をさせていただいております。 県の補助金が2026年度まで活用可能ということで2026年度の事業は継続してまいりたいと考えております。 また、56ページの市の防災訓練というところでご質問の地域に特化した訓練というのをやっているのかというようなお話の中で、ご存知のように富津市の場合、周りに海あり、山あり、川ありということで、市内でも土砂災害や津波、高潮など災害の特性が異なりますのでその意味でも地域の防災力っていうのが必要不可欠ですが、そういった中で各地域において訓練の方をしていただいています。 市の方でも講座等を通じて、その災害地域の特性に応じた津波が危険地域であれば津波を想定した訓練も取り入れて行っております。 そういった中でこの自主防災組織についても継続的に支援してまいりたいというふうに考えております。 以上です。
健康づくり課	70ページのことになります。 目標に関しましては国が定めている目標値を活用しております。 事業成果の目標を、特定健診受診率の目標値の設定になりますが、国の目標値が60%となっておりまして、私どもの方で2024年度から2029年度の６年間で特定健診等実施計画というものを策定していますが、国の60%に向けて段階的に目標設定をしております。以上でございます。

青木会長	私からも発言させていただいてもよろしいでしょうか。 富津公民館を日頃利用させていただいておりまして大変助かっております。 ただ暖房等はずいぶんと改修していただいていますが、例えばステージ上の幕が切れてしまったり、取り外しをしてしまっているということでステージ上がずいぶんと殺風景になってしまっていると感じています。 やはり文化芸能というのは一番予算を取りづらい部分ではあるとは思いますが、公民館のそういったステージの幕やその辺の今後予定の改修とか、そういった予定があるのかお伺いできればなと思います。
公民館	具体的なところで、公民館の幕、補修等の部分でございました。 そちらの方の現状をお話しますと、約２年前に、一旦改修の方を計画しまして、前年度も計画を立てたところではありますがいろいろな優先順位があります。 例えば給水の部分、そういったところの修繕など優先順位高いものに財政的な面がございまして、まだ修繕できていない状況にあります。 ただそういった中でも、可能な限り職員の手で直せる範囲で直して、使えるように努力しているところでございます。 今後につきましても状況を見まして修繕の方を対応していきたいと考えております。 以上です。
青木会長	他にご意見・ご質問ございますか。 では、新行内委員お願いします。
新行内委員	75 ページの「鋸山日本遺産認定推進事業」について教えていただきたいと思います。 鋸山は富津市にとって大変重要な観光資源で、それが日本遺産の候補地として認定され、日本遺産登録を目指しているととても素晴らしいことだと思っております。 日本遺産に登録されることによってまた知名度が上がって観光客の方も増えるというメリットがあると思いますがそれに当たって周辺の賑わいを創出することとかそういったことになってくると思います。 既存の事業者様、または新しい事業者様を誘致するとかっていったところで、事業者さんとの連携について何か具体的に行っている活動がありましたら教えていただければなと思います。
生涯学習課	鋸山の日本遺産認定に向けて地域の事業者さんが主体となって地域を盛り上げようという形で、いろんな事業に取り組んでいただいています

	が、直接日本遺産にちなんだイベント等を新しく移住された方等と一緒に、進めていこうというような動きで新たな方を巻き込んでやっているものがあります。 直接日本遺産の中で、新しい事業者さんを誘致するっていうところまではやっていないですが、いろんな方と協力して実施していこうということで、金谷地区以外の事業者さんの方の協力をいただいている状況でございます。 以上でございます。
青木会長	他にご意見・ご質問等ないようですので、基本目標１と２は終了します。 続いて、基本目標３と４に移ります。発言される場合は、挙手にてお願いします。 はい、岡田委員お願いします。
岡田委員	100 ページの公共交通の話、先ほども出ましたが、確かに人口増という意味合いにおいては、求められていることはその通りだなと思いつつも、一方で、電車やバスが来なくなっている中で、デマンド交通みたいなものを行っていかないと生きていく上で、ものすごい難しくなるというところも理解しています。 そんな中で峰タクとかの取り組みは先進的な取り組みだと思いながら見ております。 この辺りは僕が説明するのはおかしいので後ほど関係部署から説明いただければと思いますが、公共交通が減ってきて不便をされているようなエリアはたくさんあり、この峰タクのスキームって比較的地元が汗をかいてお金をそんなに使わずにうまく運営されているように外からは見えています。このエリアを広げていくみたいな議論は今後やられないのかなという質問です。
企画課	お答えいたします。 現在、金谷地区で新たな移動手段の導入に向けて住民と話し合いを重ねております。 本年１月に開催されました富津市地域公共交通会議で、金谷地区における新たな移動手段の運行内容案が承認されたところでございます。 今後、地域と協力しながら、運営主体をどこに依頼するのかということを決めてまいりたいと考えております。 以上です。
青木会長	他にご意見・ご質問ございますか。

	では、新行内委員お願いします。
新行内委員	82 ページ、「商工振興関係費」のところですが、富津市さんには利子補給のある制度融資預託融資については弊行も地元金融機関として中小企業者様にご案内してご利用いただいているところでございます。 昨今、日銀の政策金利引き上げ等により市場金利が上昇しておりまして、金融機関の方で中小企業者様等にご用意する利率の上昇傾向にございます。 市の利子補給制度がある預託融資につきましても金利が上昇する傾向となっております。 一方で利子補給率のところがもしそのまま変わらないとすると、事業者様の金利負担が増えるということになりますので今後利子補給率の引き上げということをぜひご検討いただければなというふうに思っております。
商工観光課	日頃は市の制度融資に関しましてご協力いただきありがとうございます。 委員ご質問の利子補給の件でございますが、ゼロ金利の解除がありまして、1 年経ちました。 この１年で金利の状況、金利の上昇をしているのは、承知しておりまして、ちょうど昨日と今日も日銀の政策金融会合がありまして、金利の上昇据え置きだということはニュースの方では拝見していますが、この 1 年で金利は上がっております。 来月４月から、市の制度融資の融資利率の方も金融機関のご提案があり、また近隣３市の状況も踏まえ、市の制度融資の融資利率は、比率を上げる方向で、４月から行う予定です。 それに伴いまして、やはり利子補給に関しましても、事業者支援として、行政側としても、近隣３市の状況も踏まえて検討していかなければいけない状況ではないかと考えておりますので、４月以降考えて検討していきたいと考えております。 以上です。
青木会長	他にご意見・ご質問ございますか。 では、新行内委員お願いします。
新行内委員	そうしましたら 86 ページの「道の駅整備検討事業」について教えていただければと思います。 観光目的ではない来訪促進や地元産業の活性化など防災機能の強化といった観点から道の駅を作るのはとても良いことだというふうに感じております。

	次年度予算で計画策定業務委託費というのを計上されているということでこれから具体的に動き出すのかなというふうに感じていますが、今後のスケジュール等で、何か決まっていることがあれば教えていただければなと思います。
政策推進課	道の駅について、今後のスケジュールですが、今現在、候補地の選定に向けて、調査をしているところでございます。 道の駅につきましては令和５年度から取り組みを開始しておりまして、これまで市の考え方や方針を取り決めました道の駅基本方針というものを策定しております。 その方針の中で候補地の選定に向けてどの場所が一番道の駅を効果的に活用できるかというところで条件整理をしまして、具体的に言いますと、人が集まりやすい場所、そこから市内の各車に立ち寄りやすい場所、その場所自体が災害のリスクが低い場所というようなところで条件を設定し、その中から現在富津中央インター周辺を候補エリアとして考えております。 今後、この候補エリアの一帯を調査いたしまして、具体的な場所を検討していく、そのような形で検討委員会の設置、その後の整備運営計画の策定も検討委員会の中で考えていければなというふうに考えております。 以上でございます。
青木会長	私のほうからも質問よろしいでしょうか。 117 ページの「移住・定住促進関係費」という移住関係定住促進事業についてです。 よくテレビなどで他市の事例で移住者に宿泊してもらって試してもらうとか、何日間か泊まってもらうとかそういったイベント、移住者を増やすためのそういった何かをされているというようなことをテレビでよく見たりしますが、富津市ではそういったことをすることは特に計画に入っていないのでしょうか。政策推進課の方お願いします。
政策推進課	会長の方からご質問ありました、移住者を伴って富津市を知っていただくような計画ということですが、富津市では、移住コンシェルジュというものを会計年度任用職員が運用しております。 そちらの移住コンシェルジュが富津市内のご案内をする市内移住案内ツアーというものを実施しております。 こちらは都心部や富津市を知らない方または富津市に来たことがあるけれども富津市民でなければわからないようなものをご案内するというような形で住まいであったりとか、富津市の気候、あとお仕事関係ですとか、仮に富津市に移住をしていただいたときのお医者さんであったり、

	お買い物をする施設、こういったものを市内の方でご案内をさせていただいております。 　こちらは令和４年度から実施させていただいておりまして、参加者の方から大変ご好評いただき参加して良かったというふうな形で好評をいただいておりますので今後も引き続き実施の方をしてまいりたいと考えております。 　以上でございます。
青木会長	他にご意見・ご質問ございますか。 　では、鈴木委員お願いします。
鈴木委員	87 ページの就農資金のことに関してですが、私が当時貰いたいと思ったときには親元就農のため、５年後になると、収入が 150 万より増えてしまうためもらえないと言われてしまいました。 　今は親元就農でも対象になるという話を聞いたのですが、結果、年齢的に何か制限があってもらえないとか、全然農業と関係ない親の収入が何か引っかかってしまって交付期間が１年減ってしまったとかそういう話をよく聞きます。せっかく農業やりたい人がいるのであればもう少しもらいやすい要件にはならないのかと思いました。
農林水産課	こちらの経営開始資金、農業次世代人材投資事業につきましては、国の補助金を活用した事業になっています。まず、事業の採択要件につきましては、年齢の制限ですとか、同一世帯で前年の所得等を勘案して交付の可否を判断するものというふうになっています。この事業の国の要綱が毎年のように改正をされておりまして、市の方でもその都度国の要綱の改正に合わせて見直しを図ってきているところです。 　資金につきましては、特に新規で農業に参入される方の活用のご相談が多く寄せられています。 　相談につきましては様々なケースがございますので、都度その方のどういった農業経営を行っていきたいのかというご希望等をお聞きしながら活用ができるようにサポートをしてまいりたいと考えているところです。 　以上です。
青木会長	他にご意見・ご質問ございますか。 　では、小泉委員お願いします。
小泉委員	質問というより報告みたいな感じにはなりますが、91 ページの部分で市の方にもいろいろご協力いただいて、クロダイ対策などしていますが

	昔ほどではないですが、おかげさまをもちまして、何とか努力をすればノリが取れるというような状況であります。 　ご協力ありがとうございます。
青木会長	他にご意見・ご質問ございますか。 　では、小嶋委員お願いします。
小嶋委員	122 ページの空き家バンクのことですが、事業の評価として 19 件の成約ができたということで、これに関して市内の方なのか、それとも市外から富津市に移住される方だったのかっていうのが気になったのでお伺いしたいです。 　あとは空き家バンクの物件登録数より空き家バンク利用希望したい方が大きく上回っているということで物件の登録数が少ないということが課題ということで、その辺のところはホームページ等でご案内とか広報で私も目にしたことはありますが、その他に何か活用して皆さんに周知していったほうがいいと思います。 　割とうちの近所も空き家ができており、空き家をそのままにしておくと、ハクビシンやアライグマが入ってしまって、リフォームが必要になってしまうこともあるようです。 　見た目は全然まだまだ使えるなというふうに思っていますが、何かがどうしても使えないとのことで、取り壊しをしてしまう方もいらっしゃいました。 　その辺のところで何か周知の仕方を今やっている周知の方法以外のことで市民の方に伝達と周知できるような方法があるのかなというところで、そうすると空き家バンクに登録しようと思う人も増えてくるのかなと思うのでその辺のところをお聞かせ願いたいなと思います。
政策推進課	ご質問ありがとうございます。 　まず空き家バンク周知の仕方ということ等のご質問ですが、これまでホームページでの周知や、４月に発送させていただいている固定資産税の納税通知書の封筒の中に空き家バンクの登録をしませんかというチラシの方を同封させていただいております。 　令和５年度、令和６年度は全固定資産税の納税通知書に同封のチラシの方を同封させていただいてこちらは空き家バンク制度の周知ということで、２年連続でさせていただきました。 　令和７年４月に同封させていただくチラシの方には、これまでに空き家バンクを利用して購入された方の、このような形で空き家バンクを登録、利用してリフォームをして進んでいますよというような実例を一部載せさせていただいて、このような活用ができますと少し視点を変えたチラシの方を同封させていただこうと、今準備の方をしております。

	空き家バンクの利用者の多くは市外の方ですが、市内に在住されている方も、空き家バンクを活用して新しい建物として住まいとして、ご活用をされている方もいらっしゃいます。 人数としては市外の方の方が多いです。 以上でございます。
小嶋委員	固定資産税というところでそういう方たちのために周知内容をご案内するっていうことはすごくいいかなと思いますし、ただ広報だったりホームページだったりというとまた見過ごしてしまうっていうこともあると思うのでそこの活動は素晴らしいかなと思います。 今後もいろんな活用で周知していただきたいというふうに思います。 やはり今、物価高騰っていうところで使えるもの、SDGs と言われていますが、使えるものは再利用していけるといいのかなと思っていますので、また知り合いの方でいれば、ご案内したいと思いました。 ありがとうございます。
青木会長	他にご意見・ご質問等ないようですので、基本目標３・４は終了します。 以上で、「第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画【2025年度当初予算版】」についての討議を終了します。 それでは、以上をもちまして、全ての議題を終了といたします。円滑な議事進行にご協力をいただき誠にありがとうございました。 それでは、進行を事務局にお返しします。 ６　閉会
事務局	ありがとうございました。 閉会に当たりまして、中山副市長からご挨拶申し上げます。
中山副市長	（副市長挨拶）
事務局	以上をもちまして、富津市創生会議を終了いたします。 （終了時刻　午後４時）

以上